
女郎蜘蛛
～真伝～
まことがたり
―オフィシャル同人誌―
by
PIL

女郎蜘蛛〜真伝〜

(真伝: まことがたり)

目次

解説

『女郎蜘蛛～真伝（まことがたり）～』は、'97年にPILから発売された『女郎蜘蛛～呪縛の牝奴隷達～』の完全リメイク作品となる。

『女郎蜘蛛～呪縛の牝奴隷達～』は'95年に『SEEK～地下室の牝奴隷達～』で衝撃的なデビューを果たした、SM専門ソフトハウスPILの、通算5本目となる作品。当時のOSの普及状況を踏まえ、最初にPC98版が発売され、その直後にWINDOWS95専用版が製作された。両作品は同一の作品であり、ハードウェアの性能差によるCGの色数の違い、BGMの音質の違いを除いては、基本的に相違点は存在しない

『女郎蜘蛛～呪縛の牝奴隷達～』では、それまでプログラマーとしてPILの複雑なゲームシステムを支えてきた荒縄猫太がディレクションを行い、脚本は〝まるちゃん〟こと丸谷秀人が担当。その後、『MAID iN HEAVEN』（'98年）などを発表し、PILの看板シナリオライターとなる丸谷だが、当時は、PILではオムニバス作品である『PILcaSEX』（'96年）に短編2本を発表しているにすぎない、ほぼ無名と言っていい経歴だった。また、原画担当のさくらめーるも、一作品すべての原画を描き下ろしたのは、これが初めてとなる。

しかしながら、大正時代を舞台とし、旧漢字を多用した情感豊かな文体や、膨大な分岐が生み出す多彩な結末、世界観の魅力を完全に引き出したビジュアルなど、その作品的な完成度は高く、非常な人気を獲得する。現在でもPILの最高傑作として『女郎蜘蛛～呪縛の牝奴隷達～』の名を挙げる者は多く、生産終了以降も再販を望む声が絶えなかった。

一方で、開発スタッフ側には、時間的な都合により断念せざるを得なかった様々な要素に対する不満もあった。また、ハードウェアの進歩により、当時不可能であったフルカラーCGや、音声の使用も可能になったこともある。そうした様々な欲求が結びついた結果、『女郎蜘蛛～呪縛の牝奴隷達～』の完全版として製作されたのが、『女郎蜘蛛～真伝～』である。

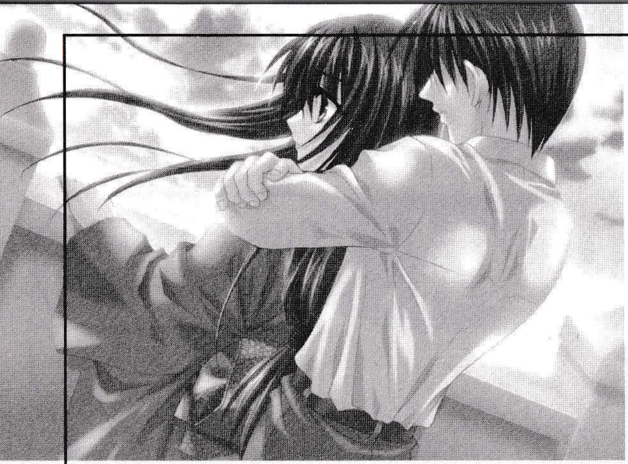
完全版としての製作が決定するにあたり、重要課題となったのは、シナリオとシミュレーションパートの充実である。『女郎蜘蛛～呪縛の牝奴隷達～』は、PILのお家芸である調教シミュレーション要素を搭載しつつも、アドベンチャーゲームとしての完成度にこだわった結果、シミュレーションパートに十分な開発期間を充てることができなかった。また、丸谷自身から登場人物の掘り下げ不足も提起され、シナリオも大幅に加筆されることになった。シミュレーションパートの台詞の増加を含め、追加された部分のシナリオは、台詞数として二千を優に超える。ゲームバランスの見直しや肌に食い込む縄のエフェクトの追加なども含め、シミュレーションパートのクオリティは圧倒的に向上することとなった。

また、当時の制作期間では、演出上必要とされつつも用意できなかったCG、あるいは追加シナリオのために新たに必要になったCGを大幅に追加。もちろん、原画は『女郎蜘蛛～呪縛の牝奴隷達～』と同じく、さくらめーるが担当。そのクオリティのほどは、ゲームをプレイしていただければわかるとおりである。

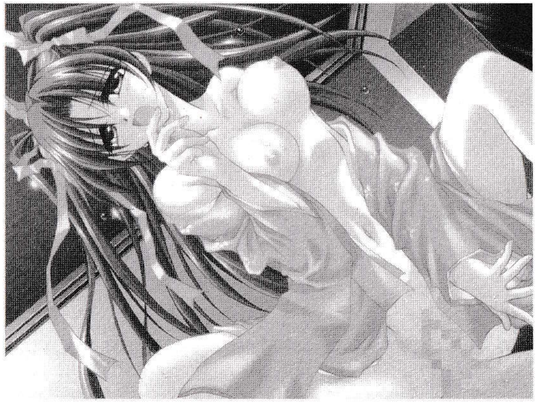
しかし、『女郎蜘蛛～呪縛の牝奴隷達～』をプレイしたユーザーにとって、今回のリメイクの最大の肝となるのは、おそらく音声だろう。

旧作をプレイしたユーザーに違和感を与えぬよう、キャスティングは慎重に行われた。とくに主要女性キャラクターに関しては、声優事務所を通してオーディションを開催し、キャラクターのイメージを重視して選定を行った。また、脇を固める男性キャラクターの音声に関しても、実力派の声優陣を起用。質、量ともに、PIL史上最高と言える、充実した仕上がりとなっている。

ディレクションは旧作と同様、荒縄猫太改め曠野一光が担当。プログラマーとしての知識と経験を生かし、ゲームとしての完成度の高さを追求している。



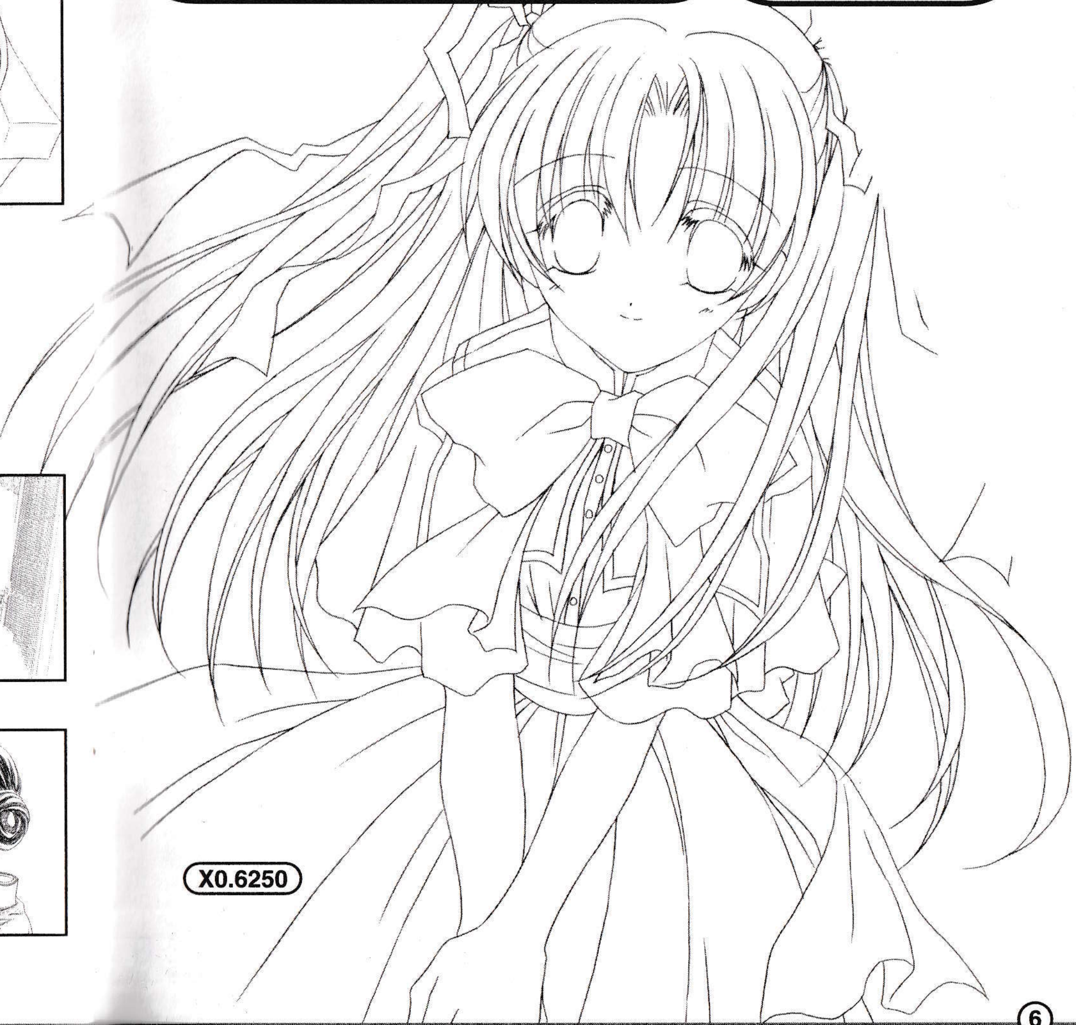




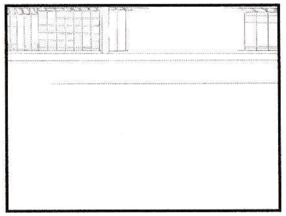
女郎蜘蛛～真伝～

微小原画集

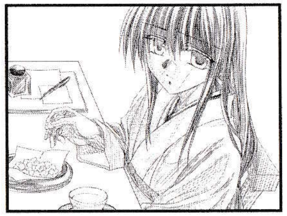
illustration by さくらめーる



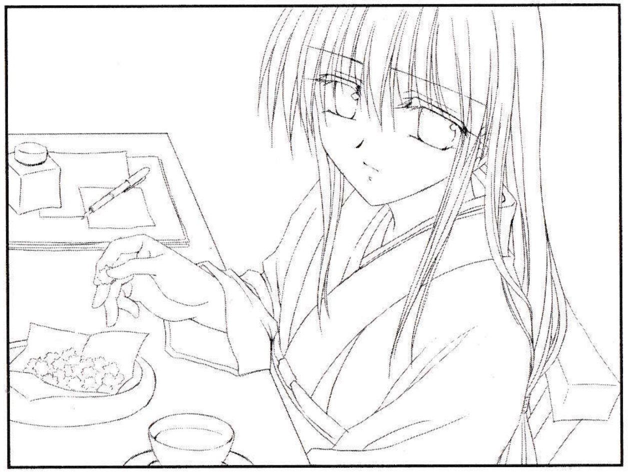
X0.6250



●背景



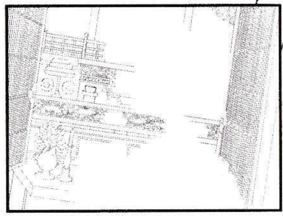
●影指定



X0.3100



X0.3100



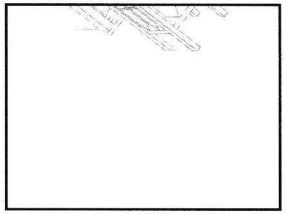
●背景



●影指定



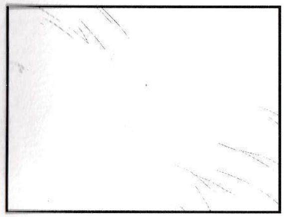
X0.3100



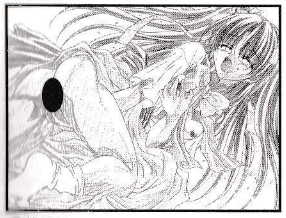
●背景



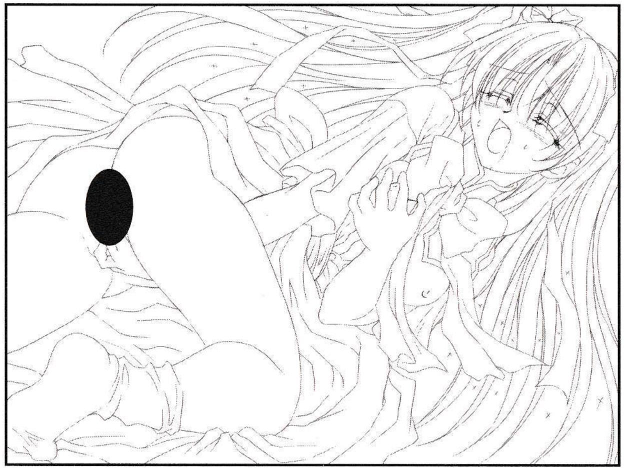
●影指定



●背景



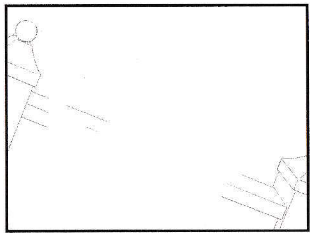
●影指定



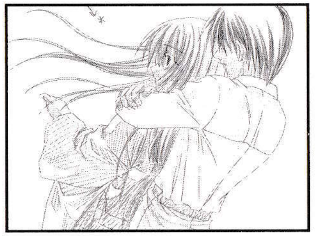
X0.3100



X0.4651



●背景



●影指定

さくらめーる's VOICE

もうちょっと自分の趣味に走った構図とか縛り、増やしたかったです(笑)

塗りの方も、今は昔の16色とは違う色々なことができますので、自分好みのライティングなどやってしまいました。

女郎蜘蛛は熱心なファンの方が多かったので、こうやってまた皆さんの元に届けられるのは嬉しい限りです。

対談

脚本 丸谷秀人(まるちゃん) × 企画/ディレクション 曠野一光(荒縄猫太)

⚠ ネタバレ注意!

この対談はゲームをプレイしてからお読みください。プレイ前にこの対談を読んでしまうと、ゲームの謎解きの楽しみを損ねる可能性があります。

『女郎蜘蛛』の分岐構造

——どうして縄調教をゲームにしようと?

曠野「いちばん最初は『SEEK』のおま毛ディスクのお絵描きツールだったんですよ。女の子の裸の絵があって、選択できる色が黒と髪の毛の色だけだという(笑)。で、それを発展させて、マウスで自由に縛るゲームができないか、というのを考えたんです。でも、そうするとS字型の縄とか、力学的に不可能な縄でも描けちゃうし、今回も結局はああいうかたちに落ち着いたんだけど……」

丸谷「縄っていうのは田所さんの案じゃないんですか? それは知らなかったー!」

曠野「それで、現代ものはもう色々やったし、縄だから和風の館、大正時代、という三題話が決まったところで、まるちゃんの耳元でボソボソと、こういうネタがあるんだけどやらないかね、って(笑)。で、プロットを考えてもらって、もうちょっとこういうものを入れてほしいとかいう話をして。でも、後半三分の一ぐらいは、ほとんど……」

丸谷「ほっとかれました(笑)」

曠野「『まじかるJam』が手一杯で(笑)」

丸谷「それに途中で私がすごく詰まって……とにかく未砂緒の動機が全然解らなくて、そこが大変でしたね。やっぱりお金にしちゃうと、物語では、お金ほど説得力のない動機ってないんですよね。現実で生身の人間がやってて、本当の金が動いていると、生々しくなるんだけど……実際お金で人死ぬし」

曠野「そうそう、だから『SEEK』で十億円もらうエンドもバッドエンドだと言われる(笑)。『女郎』の水葬エンドもバッドエンドに見えると言われてはいるけど」

丸谷「でも、縄はやっぱり今のかたちで良かったかもしれませんね。ゲーマーの性からして、特定の場所に妙にポイントとかがあって、そこを絞めるとパラメーターが上がったりすると、絶対そこばっかり縛っちゃう。それだと見た目が美しくないのしかできないだろうな、というのがあったんで」

曠野「今の形式だと、パターンが多いだけあって、"これをやってればOK"みたいなのは、あんまりないんですよ。そのときの体力や能力値で、パラメーターの変動が微妙に変わるような、ほとんど『SEEK2』で使ってたようなシステムをすでに使っているので……」

丸谷「ただ、旧版では、パラメーターが沢山あるわりに、それを上げても物語への影響がほとんどなかった。あれはさすがに貧弱すぎましたね(苦笑)」

曠野「最後にはみささぎ先生(『Nails』などのシナリオライター)もシナリオ手伝ってたし」

丸谷「でも、あの部分は今回もそのまま使いましたよ。未砂緒の調教イベントの五割近くは彼のをそのまま使ってますから。雰囲気いいし」

曠野「ただ、そういう分担だったから、調教とアドベンチャー部分との繋がりが薄くなっていたんだよね。今回は台詞とかをそのまま使っても、間の描写が書き足されているので。とはいえ、淫乱度がMAXになったとしても、例えば茉莉絵が普段から廊下を裸で歩いていたりとか、そういうことはないわけで、そこはやっぱり、物語として……(笑)」

丸谷「それこそ逆に非現実的でしょう(笑)。でも今回はやっぱり、それなりに相関があるんですよ。パラメーターが違うと、茉莉絵ルートのエピソードとか、かなり変わるし」

曠野「違うプレイをしていて、細かい台詞とか違うじゃん、というのにふと気づくようなゲーム……」

丸谷「それが本当の望みなんですけどね」

曠野「だから、一回だけプレイした人の感想と、何回もプレイした後の感想が違うでしょうね」

丸谷「一度ハマりさえしてくれれば、もっと面白い世界が開ける気はしますね」

曠野「私がまるちゃんをすごいと思うのは、あれだけ面倒くさい筋立てをちゃんと、いやちゃんとでもなかったんだけど(笑)……なんとかまとめたっていうのがね。分岐するコンテクストというか、新しいタイプの小説として考えるなら、『女郎蜘蛛』は非常によくできていると思います。いつも思うんですけど、当然起きうる結末をバッドエンドと呼ぶのはいかがなものかと。そういう考え方は『女郎蜘蛛』にはないんですよ」

丸谷「ほとんどのクリエイターはおそらく、いくつも枝が広がっていく物語じゃなくて、幹があってそれ以外はみんな偽物だっていう発想でつくってるのかもしれませんね」

曠野「だからこそ、それはちょっと強調しておきたいよね。基本的に私もまるちゃんも、最初から最後までどのルートを通っても、必然があって流れていく物語でないと、お互いに納得しないという性分」

丸谷「だから、『女郎蜘蛛』にトゥルーエンドはないんですよ」

曠野「そのためにエンディング間際のあの複雑な構造で、死にそうな目に合いましたけど。旧版ではおそらく、存在しているはずなのに、絶対に行くことができないルートなんかもあったみたいだし……」

丸谷「そのはずですね(苦笑)。今度はレズエンドに行けるといいんですけどね。まあ、数値的に厳しいくせに新しい絵ないんだけど」

キャラクターについて

丸谷「蝶子はね、なんでこんなに耐え忍ぶのか、という部分で、未砂緒の動機が決まらないうちはかなり葛藤があったんです。最初は蝶子に色々教えてくれた叔父さんがいたんだけど、その叔父さんは蝶子を助けようとして、北川に殺されてしまいました、っていうエピソードがすごい昔にあって。それで彼女はすべてを諦めたっていう話だったんですよ」

曠野「頭がいいので、自分で真実を発見してしまう下りが、やっぱ頭のいい娘さんが好きっていう、まるちゃんの趣味が……(笑)」

丸谷「それに、当時の自分の中で、今までの調教ゲームへの反発があったんですよね。"こんなモンで人間堕ちねーよ!"っていう。本当は『女郎蜘蛛』でも、あれぐらいやっても堕ちない人は堕ちないと思うんですよね。仮に無茶苦茶なことをしても、まあ廃人になるだけで、都合のいい奴隷とかにはなりませんよ、普通」

曠野「まあ、そこまでのリアルは、さすがに……」

丸谷「求めなかったし。ただあれでも、調教ゲームの中で有数の堕ちにくいキャラだと思いますけど」

曠野「蝶子って入力が極端に少ない環境で育てられたから、賢くならざるを得なくなったという。生き残るために、すべてを読みとってすべてを考えなければならないという……」

丸谷「まあでも、あの人って、よねさんがいたからアレで済んでるんですよ。今考えるとよねさんも、すごく蝶子に執着してるから、ちょっとマトモじゃない気もしますけどね」

曠野「よねさんも撃たれた段階で壊れたんだと思うよ。連れて逃げようとしてたときまでは、ただの親切な人。撃たれて、蝶子に助けられたという事を知ってから、蝶子への想いが深くなったんだと思うな。だから、女中をクビになったあと、外で動いてた可能性もあるんだよ。北地商会と連動して」

丸谷「ただ、それは書かなかったですけどね」

曠野「それはやっても蛇足だし、ゲームに影響を与えることはないので……。ただ、きっと蝶子のことを思って、色々やってたんだろうなって。そうでないともう一回抵抗した可能性あるし、何であんなに素直に屋敷を出たんだっていう……。あと、いいよメール着信ボイス! 早速使ってるよ」

丸谷「あんなもの入れたんですか?(笑)」

曠野「そうそう、だからさ、夜中にパソコンついてて、結構ボリューム上げているから、ウトウトしてるときに、"読むんですか~"って(笑)」

執着心とSM

丸谷「結局、私が書く動機は執着心なのかな、って話をしてたんです、この前。未砂緒が心の中の"清邦さん"に対して持ってるのは、もはや愛というより執着じゃないですか? で、鉄っちゃん(鉄哉)が蝶子をあれだけガシガシ犯るのも、愛はないかもしれないけど、執着はものすごくある」

——鉄哉本人は金のためみたいに言ってるけど……。

丸谷「違うよね」

——本当は執着であって、それも言ってみれば、ひとつの愛のかたちなのかもしれない。

丸谷「おそらく、ヤツはサディストではない」

曠野「エロ漫画でもよくある、"なんで俺のほう向いてくれないんだぁ!"ってレイプしちゃう系」

——そういうルートもありますし。今回、エンディングもついていますね。

丸谷「あれが今回いちばんやりたかったんですよ。リメイクするなら絶対あれはやろうと思ってて。バッドエンドみたいに思う人がいると悲しいけど、バッドエンドではないでしょう。あれは。あとは、本当に今思うと、所謂純愛ルートでも蝶子の防壁は崩されちゃってるんで——それまでの彼女は、他人とディスコミュニケーションをわざわざつくることで防壁をつくってたから——自分を開いた時点でボロボロになっているんで、彼女はそれからかなり不安定になっていると思うんです。その辺を意識して、書き直しましたけどね。イヤだっていう人がいるかもしれませんけど……」

曠野「ストイックな蝶子が好きだった人には、中途半端に見える可能性はあるんだよね」

丸谷「やっぱり中途半端に感じるだろうな……」

曠野「っていうか蝶子自身が自分で決めかねているんだからしょうがねぇだろうな、と思う」

丸谷「という気はするんですよね。私にしてみれば、必然だったんです。あと、いちばん手が入ったのは茉莉絵かなぁ……」

「私もまるちゃんも、最初から最後までどのルートを通っても、必然があって流れていく物語でないと、お互いに納得しない」(曠野)

曠野「茉莉絵はもともとは、狙ってた方向とは全然違う方向に行ってしまって、ちょっとしょぼん、みたいなキャラだったのが、自覚的に色んなモノを追加したおかげで、非常に味のあるキャラに」

丸谷「やっぱり最初の狙いとは外れてますけど」

曠野「最初は、登場シーンで自転車で転ぶハイカラさんだったのが……」

丸谷「お転婆ぶりは消えましたね」

曠野「でもある意味、正しい末砂緒さんの子供になったな、と」

丸谷「なんかよくない方向に行った気が（笑）」

曠野「いや、俺はいいと思うんだよね。だから蝶子も茉莉絵もちゃんと末砂緒の子供だなあ、と。茉莉絵縄奴隷エンドもついたし」

丸谷「誰も縄奴隷と思ってくれないでしょうね」

曠野「まあ、最近のSM漫画なんかだと、ああいうかたち多いよね」

丸谷「ええ、っていうかね、おそらくSMってそういうものだろうと、私が思っている部分が反映されてるかもしれませんね。結局あれは契約と了解だって……。蝶子はそうはならないんですけど……やっぱりああいうの見過ぎたせいで、逆にトラウマになって受け入れられないんじゃないかと……」

曠野「ああ、でもそういうエンディングはちょっと欲しかった気はするなあ。エロゲーとしては」

丸谷「そうなんですよ。でも、性格から考えるとないんですよね」

曠野「まあ、密会エンドは比較的……。ただ、本当にラブラブなSMカップルになるのは、ステップが足りないというか」

丸谷「足りないでしょう。可能性はありますけど、それはもう同人誌の世界の話で、同人誌で描いてくれる人いねえかなあ、っていう（笑）」

『女郎蜘蛛』の悪役

丸谷「末砂緒さんってやっぱり、悪役みたいな言われ方をしちゃいますけど……。あの話にじつは悪役らしい悪役はいないんですよね」

曠野「一応、死んだ清邦さんと、その陰を背負ってる北川ってことになるわけじゃない？」

丸谷「北川も悪って感じはしないんですよね」

曠野「優秀な兵隊なわけでしょ？」

丸谷「その割には歪んだ情念がありますけどね」

曠野「だから、ありもしない命令を随時遂行しているんだよね」

――彼の行動原理は『真伝』で明確になりましたね。

丸谷「まぁ、私が歳をとったからなんでしょうね。というか、最初に書いたとき私も北川ってよく分からなかったんですよ。最初は普通の執事だったはずなのに……」

曠野「いつの間にか銃の名手に（笑）」

丸谷「そうそう、銃の名手になったあたりから、北川はおかしくなって」

曠野「家に仕えるという信念はあるんだけれど、それ以上、過去の出来事が語られるわけでもないし」

丸谷「という訳でああいう中途半端な存在だったんですよ。ただ、今にしてみると、これだけ蝶子に色々するのは恐らく執着してるんだろうな、というのが見えたので、今回は、かなりそういう方向に書き直しているんです」

曠野「じつは、拗けた崇拝感情などを持って蝶子を抱いているんだろうという。でもあの顔であの声で、蝶子とマグワってるところを想像すると、とても……なんかイヤーンな感じに（笑）」

丸谷「でもヤツって裸になるとすごいですよ。鋼のような筋肉が今でもついていたりして……」

曠野「で、〝では。〟とか言って犯る訳でしょ？　うひゃ～（汗）」

男性キャラの過去

丸谷「外伝は、清邦と張さんが話しているシーンが、若くて爽やかで良かったですね。ボーイズゲームみたいな声で（笑）」

曠野「話してる内容はすごいんだけど。外伝の時のよねさんも……じつは結構若い」

丸谷「伊佐治の若い頃はどうだったんでしょうね」

曠野「あ～、なんか、もっとへらへらした……」

丸谷「でもヤツは、きっと日本でかなり早い時期にバイクに乗った男ですよ」

曠野「生まれは明治だもんねー」

丸谷「明治ですよ。でもバイク乗ってましたから。結構濃いヤツなんじゃないかという」

曠野「ハイカラなパパとかがいたんじゃない？」

丸谷「逆によっぽどギチギチでガチガチだったか」

曠野「ママに可愛がられてそうって話もありましたね。〝伊佐治ちゃんはいいのよ。好きな事やってて〟みたいに言われて育ったんだろうな、って」

丸谷「妙に厳格な親父と妙に甘やかしてるヤツがいたんじゃないかとか」

曠野「あとは、文学者になるのを失敗しているっていうか。作家とか詩人とか……」

丸谷「なり損ねたというのは間違いない（笑）」

曠野「あの人はねぇ、ルパン三世のように、年齢に比べてエピソードが多いから……」

丸谷「ただ、どれもプレイヤーを、愉快にさせるかというと、かなり問題はあるでしょうね。でも伊佐治は書いてて楽しかったなあ」

曠野「不思議な狂言回しではあるよね。でも俺は貴重なキャラだと思っているので……。最近のゲームで多い、ストーリーが隙間なくつめこまれているような感じが、伊佐治で緩和されている気はするね」

丸谷「ヤツがいなかったらもう、実の娘を虐待するシーンばっかりの恐ろしい話ですよ」

曠野「今度は縛りで嫉妬しますからねー。末砂緒ばっかり選ぶともう反応がすごい（笑）」

丸谷「他に語ってないキャラっていましたっけ？」

曠野「那賀川？」

丸谷「あれはもう、本当に装置ですよ」

曠野「唯一の外部とのパイプですからね。蝶子に対しての感情も、単なる同情でしかない」

丸谷「彼は頭は良くないけど、自分がどの程度の頭の悪さか知ってはいる人なんです。指示を受けて、それを現実に植え付けることはできると思うんですよ。ただ、それは良くできたパイプでしかない」

曠野「指示がないと止まっちゃう。清邦さんがそういう人ばかりを選択して手元に残したわけだし」

丸谷「だけど清邦さんは、そういう人に心は許さないんですよ。清邦にとって友達だったのは、張さんと伊佐治だけだろうな」

曠野「ただ、一歩間違えるとライバル関係っていうか。『水滸伝』みたいな……」

丸谷「清邦も張さんの力量は認めてるんだけど、俺には勝てないな、という。張さんの方も、この人には負ける、って。だけど近接したところにある唯一の才能だったんでしょうね。力量って何だよって説もあると思うけど（笑）。あと、変な解釈ですけど、清邦は殺されたときに、おそらく感謝したんじゃないかという気がするんですよね。暴走していた自分が止められなくなっていたわけだから。もしかして張にありがとうくらい言ったかなって気がするんですね。なんかね……あれは外伝書いて良かったな」

「おそらくSMってそういうものだろうと、私が思っている部分が反映されてるかもしれませんね」（丸谷）

「まるちゃんはブレーキ付いてないけど、エンジンはいっぱい付いているので（笑）」（曠野）

Kazumitsu Kouno

Hideto Marutani

次回作について

――『女郎蜘蛛』と同じ舞台設定の別の作品をつくられているそうですが。

曠野「『仏蘭西少女（仮）』ですね。物語の時間的には、『女郎蜘蛛』より数ヶ月前から始まります」

丸谷「だいたい五月、六月のはじめの頃から始まって、ルートによっては、『女郎』を遥かに超える期間の話ですね。震災後の話もありますからね」

曠野「それはでもラストエピソードとしてあるだけで、基本的な期間としては、『女郎』より少し長い程度。場所的にも、一応同じ都内が舞台で、同一の登場人物もいたり……。別に続編でも姉妹編でもないんだけれど」

丸谷「ま、強いて言えば、従兄弟位ですかね」

曠野「そうですね。あと、今度はお屋敷じゃなくて洋館。これも三題話で、洋館・地下室・金髪碧眼の少女、というシチュエーションはどうだろう、と私が不意に持ちかけて。で、地下室でその少女を飼うんだけど、その子は閨房術っていうか、Hなテクニックを仕込まれていて、主人と認定すると何でもしてくれるという、そのためだけの存在なんですよ」

丸谷「まあ、やっぱり書いているうちに、ある程度ずれましたけどね。そもそも、じつは私、ロリキャラとかって好みではなかったんですが……自分で書いてみて、これはウチに一人欲しいな、と（笑）」

曠野「ようやくね（笑）」

丸谷「ええ、ようやくその域に到達しました（笑）。あとはまあ、テーマというか、〝純粋さ〟がキーワードですね」

曠野「ピュアな存在ってのがね……」

丸谷「ピュアって何なのか？　っていう」

崩壊感覚

――『女郎蜘蛛』の方は一言でいうと……？

丸谷「情念の絡み合いですよね。本当にね……」

曠野「何かにこう、念が残って人々が絡まるっていうのを……」

丸谷「なんせ縄ですからね。縄で絡む……」

曠野「縄で絡んで蜘蛛で……」

丸谷「やっぱり、末砂緒の動機で苦しんでいたときに、あきらめないでよかったですよね。あれをあきらめてたらおそらくもう……」

曠野「うん、銭金問題にしていたら、薄い話になってたよね」

丸谷「リメイクはされなかったでしょうね。なんかね、それだとやっぱり思い入れも違ったし、夢のシーンも出てこなかっただろうし、北川もあんな凶悪にならなかっただろうし。やっぱり暴走しないとね（笑）。とは思うけど、でも、三十日って枠があって良かったと思いますね（笑）」

曠野「何があっても、ストーリーがどんなにマルチで収拾不能に展開しても、地震ということで区切りはつけられる。ちょっとあざといけれども、物語として、結末がつけられないほど圧倒的な状況というのも描けるっていうのが、強みにはなるかな、と」

丸谷「最後にどう転んでも伊佐治は死んで、関東大震災が起きる、っていうことは最初から決定事項だったんですよ。まぁ伊佐治が好きになったので脱出できるルートもできたんですけど」

曠野「〝この人たちここまでいったら、もう日常続けらんないじゃん〟っていう部分も描ける。普通のゲームだと、エンディングを考えた瞬間にそれを避けちゃうからね。それかもしくは、失敗して矛盾だらけになって、なんかつまんないエンディングがこじつけたようにくっつくか。でも、地震が起きるとその時点でスパッと終われるっていう」

丸谷「そうそう、その辺はやっぱり得ですよね。構造上ね。それまでの崩壊は、鴉が鳴くとかああいうのは全部、私の趣味ですけどね」

曠野「遠くで犬が撃ち殺されてる描写とかも……」

丸谷「あれを書いてしまったから北川がおかしくなりましたよね（笑）」

曠野「あとね、風景描写とかも、まるちゃんのネガティブな部分というか、世の中への憎悪というか……。寂れた庭とか、死んだ鯉とか、ああいう描写の積み重ねがすごいね」

丸谷「ああいうのは処女作の『犬』（『ＰＩＬ ｃ ａＳＥＸ』収録）から変わらないんですけどね。『犬』も崩壊していく話なんです。なんか、私の頭の中っていうのはどうも、ジュブジュブしてて、崩壊していくっていうのが強迫観念のようにあるらしいんですよね」

曠野「あの最初の『犬』からして、水がちょっとずつ染み込んでくるっていう……」

丸谷「やっぱり好きな小説とか映画の影響もあるんだと思うんですよね。蔡明亮（※）とか。あの人も水っぽい話なんですよ。台北とパリが舞台なのに、廃墟なんですよ。人が妙に少ない、通らないところばかり選んで撮って、ジクジクしてるんですよ」

曠野「『女郎』は夏の話なんですけど、暑いっていう描写が少ないんですよ。ただし夜は寒くない。だから、装置として使っているのは、裸でいても大丈夫な環境っていうだけで……」

丸谷「あとはなんか、人が気が狂うにはいい季節だっていう（笑）。誰かがレビューサイトで、レビューっていうかエッセイで書いてた人がいて、あれは完全に、ミノタウロスの迷宮に入っていく話だ、って。最初にだんだん人界から離れて異界に近づいていくって描写があって、門が閉められることで異界が完成すると。それから後は異界で一貫して描写があって、で、誰を救い出すのかっていうと、それは蝶子だ、っていう解釈で。ああこれは面白い解釈だな、って思いました。でもなんか、基本構造は次のヤツも変わらないような……」

曠野「まあ、それは良いと思うんだよ。それがまるちゃんの得意なパターンだから」

丸谷「そうなんですよね。異界に入っていって、主人公が変になって、世界そのものもおかしくなっていくっていう」

曠野「そうそう、まるちゃんはブレーキ付いてないけど、エンジンはいっぱい付いているので（笑）」

丸谷「そこが困ったところで（笑）」

曠野「だからテキスト4MBとか一気に書いちゃうわけで（笑）」

※蔡明亮（ツァイ・ミンリャン）　台湾の映画監督。代表作『青春神話』『愛情萬歳』『河』『Hole』『ふたつの時、ふたりの時間』。

『真伝』の見所

――いちばんの見所というのは？

丸谷「それはやっぱり絵が綺麗になったことと、声が入ったことでしょうね」

曠野「蝶子役、すごい上手かったですよ」

丸谷「あれはびっくりしましたよ。最初はできる人いないんじゃないかと思ってたから……」

曠野「何つーの？　激情がほとばしったところとかも、いいなあ。死んじゃう所のか弱い声も、泣きそうになっちゃったもん、俺」

丸谷「茉莉絵も可愛くなったし」

曠野「未砂緒の回想もぐっと来た」

丸谷「伊佐治も、特別調教の部分とか、もうすげえオヤジで。コイツ伊佐治だ、という（笑）」

曠野「だから、新しくやる人は、もうニュートラルな気持ちで楽しんでもらえばいいし、旧版をやっている人は、変わった部分を探して楽しんでくれれば……アラ探しじゃなくて（笑）」

丸谷「やっぱりどうしても、違和感はあるかもしれないけど……」

曠野「それはやっぱり、昔のものは想像力に頼っている部分が大きかったから……。だから本当は僕なんかは、個人的にはゲームはすべて記号で、頭の中で妄想を紡いでくっていうのがいちばん楽しいと思うんですけどね。声が欲しいとか、絵をもっと綺麗に描いて欲しいとかいうのは、妄想じゃない部分への表現だから、それはニーズがあるから応えているけれど、『真伝』も頭の中でちゃんと妄想逞しくやった方が楽しめるんじゃないかと思う」

丸谷「そういう風に書いているつもりですし」

曠野「あとは、訳のわかんない台詞だと思っても、絶対どっかで繋がるから、それは心に留めておいた方が楽しさが倍増すると思います」

丸谷「伊佐治の話は聞いてもほとんど無意味だけど（笑）」

――それでは、それぞれいちばんこだわった点は？

曠野「私はプログラマーだしディレクターだから、全体的なチューンナップですね。操作系から何から、今までのストーンヘッズという会社の作品で徐々にバージョンアップしたものは全部叩き込んだし。空気のように気づかれない部分でクオリティを上げる、っていうことですね。だからこそ、初めてやった人は単に質のよい作品として遊んでもらえると思います」

丸谷「やっぱりこれだけ年数たっちゃったから、私自身の考えとかも変わっちゃって、当時見えなかった登場人物の心理なんかが見えてきたんですよ。そこを掘り下げるのが、私的にはいちばん大きかったですね。それと、前回中途半端に放置されちゃった、切なく蝶子を犯っちゃうところの後日談とか。あとはもちろん、調教後の反応のなさ。そんな感じですね。手をつけられなかった部分もありますけど、これだけできれば最高でしょう。そう思いますね」

「当時見えなかった登場人物の心理とかが見えてきたんですよ。そこを掘り下げるのが、私的にはいちばん大きかったですね」（丸谷）



こんにちは。はじめまして真木八尋と申します。

ＰＩＬさんには「ナビキノカジツ」でもお世話になりました。（これからもお世話してくれると嬉しいなぁ（笑））其の昔。とある原画作業のおり、資料のためにと緊縛系の写真集を買ったのですよ。それがこんな所で役に立つとは…（ＳＥＥＫ買ってたりするけど）本当にたまたまだよ？　ＳＭや縛りが好きだからって訳じゃないゾ（ＳＥＥＫの画集もってたりするけど）本当だよ。
ただね、縛りは真っ裸より着物の上からの方がイイ！と思うのだよ。それと、縛るならやっぱり洋服より和服美人だなぁと

茉莉絵



いやぁ…茉莉絵ちゃんかわいいですね。
真伝になって、さらに可愛さが増しています。
僕は、見本でゲームより大きな絵見せていただいたので、
こういう仕事やってて良かったなぁ…てな感じでした（笑）。
てな事で一応描いてみたのですが…あいかわらずだな…俺の絵は…。
SCA自（スカジ）



女郎蜘蛛～真伝～ 用語辞典

解説・丸谷秀人

あさくさおぺら【浅草オペラ】

大正の中頃、浅草の劇場で好評を博し、立て続けに上演されたオペラやオペレッタの総称。主な作品は『ボッカチオ』『天国と地獄』、原典にかなりの改変がほどこされ、芸術としての価値は低いと言う説もあるが、うければ勝ち。どうせ踊っているのなら踊らにゃソンソン。

清水金太郎、原信子、田谷力三などの人気俳優を輩出したが、関東大震災後、たちどころに衰退してしまった。

田谷力三は戦後も長い間テノール歌手として第一線で活躍し続け『生きている日本大衆オペラ史』と讃えられていたが、1988年3月30日心不全の為89歳で永眠された。

あさくさじゅうにかい【浅草十二階】（関連　凌雲閣）

1890年（明治23年）に竣工。

創建時は凌雲閣が正式名称だったが、のちに通称だった浅草十二階を正式名称とした。

10階までが煉瓦造り、11、12階が木造という安全性を無視した素敵な構造。

開業当時、日本初のエレベーターが設置され話題となったが、駆動するモーターの動作が不安定で、すぐに運転中止のハメになった。

当時としては驚異の67メートルの高さを誇り、当初は物珍しさから人が押し寄せたが、明治末には流行らない観光スポットと化していた。大正期にエレベーターを復活させるなどのテコ入れをしたが、初期の人気が戻る事は二度と無かった。

関東大震災で倒壊。倒壊後陸軍工兵隊の手で爆破され地上から消えた。

あじさい【紫陽花】

ユキノシタ科の落葉低木。6月から7月にかけてが花の見ごろ。

花弁に見えるのは全て萼（がく）である。

いとうせいう【伊藤晴雨】

責め絵師。江戸時代の責め絵の伝統を引き継ぎつつ、髪に対する独自のフェチズムが充満したセンセーショナルな絵を発表し有名となる。

当時、一般に広まりつつあった写真をも表現に取り入れ、雪中で妊婦を縄で逆さ吊りにして責める光景を納めるなどの凄絶な作品を残す。

この人がいなければ『女郎蜘蛛』は存在しなかったに違いない。

うぐいすばり【鶯張り】

日本に過去存在した建築方式。

廊下の下に鶯が多数隠してあり、廊下を踏むと圧迫された鶯が啼く。

動物愛護の精神に反すると、国際的な非難を受けて廃れていった。

……。

踏むと、鶯の啼くような音を発するように張った板のこと。

主に廊下に使用した。来訪者の接近を察知する為に考案されたという説があったような気がする。

エッグスタンド

卵を立てる装置。これに立てると卵が倒れない。

おうれんふぉあ【黄蓮華】（関連　外地、『仏蘭西少女』）

当時、上海の裏社会を支配していた結社の首領。

後年、アメリカへ渡りそこでも成功したと言う。

がいち【外地】（関連　北畠清邦、満州）

①国外の地。

②明治初年に国際的に認められた日本領土以外の土地で、後に日本の領土となった土地。

朝鮮、台湾、樺太、南洋諸島を指す。

ただし広義の意味として、戦前、日本が半植民地化していた満州、関東州。他に中国沿海部、東南アジア地域などが含まれる事もあった。

かんとうぐん【関東軍】（関連　外地、満州）

関東地方を中心に活動する暴走族の事ではない。

暴走はしていたが、おもに暴走していたのはお隣の中国でである。鉄道を爆破したり、民間人を置いて逃げたりしたので有名。

きたばたけけ【北畠家】（関連　北地商会）

北地商会を支配する一族。

NHK大河ドラマに登場した北畠顕家とは、余り関係が無いようだ。

ちなみに大河ドラマで顕家を演じたのは後藤久美子だった。

きたばたけざいばつ【北畠財閥】（関連　北畠家、北地商会）

北地企業群、及び、北地企業体とも言われる。

没落華族北畠家に婿として入った病院経営者北畠清邦（旧姓　中畑）が一代で築き上げた一大コンツェルン。

清邦の才覚と北畠家先代（北畠憲光）の人脈が結合し明治晩期から大躍進した。

薬学・病院経営部門を出発点として、金融、造船、機械、繊維、出版など多岐に渡って事業を拡大。大正末期には、財閥の末席に連なる規模を持つに至った。

きんらんしょうじ【金卵商事】（関連　中畑伊佐治（正義））

①新進気鋭の実業家、中畑伊佐治の事業の中核となっている会社。

他に金卵金融、銀卵通商、銅卵製作所、華卵出版などの関連企業がある。

伊佐治の気分によっては、きんたまご、と呼ばれる事もあった。

②詐欺師のペーパーカンパニー。

紙切れ上の会社なので、持ち運ぶのも破り捨てるのも簡便な優れもの。

ぐんばつ【軍閥】（関連　外地、満州）

清朝末期から中華民国にかけて中国各地方に割拠した私的軍事集団。

中には諸列強（日本を含む）から資金、武器などの援助を得るのと引き替えに、それぞれのスポンサーが中国で利権を漁る時の手駒となる者もいた。

有名なのは袁世凱、張作霖、段祺瑞など。

けいりん【桂林】（関連　外地）

中国南部の都市、奇岩が立ち並ぶ独特の景観で有名。

古来より中国山水画の題材としてよく採り上げられている。

少し前に中国茶のCMにも登場していた。

こぐちすえきち【小口末吉】

猟奇事件を起こした人。でも、女にしてと言われて猟奇しただけなので、ある意味被害者でもある。どうも当人はノーマルだったらしい。無罪となったものの獄中で死亡。本当に運の悪い人である。

小口末吉いわく。

「惚れられたのがいけなかった。ヨネは決して変わり者ではない。いい女だ。俺も惚れてるからしょうがなかった…」

だそうなので、まぁ、愛が在ればいいか。

『女郎蜘蛛』に登場する、松川よねとは関係が無い。

ちなみに、筆者は猟奇されたと言うかしてもらった女の方の死体写真を見た事があるが、当時と今とでは美の基準が違うのか、妙に傷が多いヘンな死体にしか見えなかった。

さぎし【詐欺師、三百代言】（関連　中畑伊佐治）

弁護士、政治家、作家など多数の職業がこう言われる。

クソゲーを作ったスタッフもこう言われる。

だが、現実問題としては詐欺は近年益々悪質の度合いを加え、破滅させられる人間が後を絶たない。うまい話にはご用心。

シェイクスピア【謝クスピア】

すんごく有名な人。読んだことなくても誰でも名前は知っている。

代表作『マクベス』『ジュリアスシーザー』『ハムレット』『ロミオとジュリエット』『真夏の夜の夢』『リア王』『から騒ぎ』『オセロ』『ベニスの商人』『テンペスト』。

実に良くパクられるが、これだけ有名な人の作品をパクってもパクリと呼ばれず新解釈とか呼ばれるようになるから不思議。

ジャンク【支那船】

中国独自の様式の船舶。

ただし特定の形式の船の事ではない。

『女郎蜘蛛』に登場するジャンクは四角い帆で進む木製の平底船。

船体内がしきられており、一カ所に浸水しても沈まないらしい。

しゃんはい【上海】（関連　『仏蘭西少女』）

中国沿海部の主要都市の一つ。

アヘン戦争で敗北した清が西洋列強に開港し、それをきっかけに発展。

幕末の段階で列強の居留地が置かれており、その影響もあっていち早く西洋文化の影響を受け、高層建築物と中国古来の建築様式、及び、アジア人と西洋人が混在する一種独特な街を形成。

その猥雑さとモダンがミックスされた無国籍な雰囲気から魔都とも呼称された。

『上海帰りのリル』は有名。

しょうきゃくろ【焼却炉】（関連　北畠家）

物を燃やす炉。一家に一台あると便利だが、アパート暮らしでは無理。

ゴミや死体を焼くと灰になる。

昔はエロ本などが落ちていたものらしい。

しょせい【書生】

①明治・大正・昭和初期。学生の身分である人間をこう呼称した。

②他家に寄宿し家事などを手伝いながら学問をした学生の事。大学生が多かったので、書生＝大学生と言うイメージが現代はある……のかもしれない。

じょちゅう【女中】

メイドの事。

この言葉だけで興奮できる人もこの世にはいる。

昼は家事炊事いじめ接客。夜は夜で調教、秘密の世話などをこなす人……と一部の世界ではなっているようだ。そういう人がいないとは断言できないが、大部分は市原悦子だと思っておけば、人生に無駄な希望を持たずにすむかもしれない。

それに、もし万が一本物が可愛かったりすれば、それだけで幸せになれるだろう。

他家に住み込んで炊事・掃除などの雑用をこなす女の事。

じょろうくも【女郎蜘蛛】

大型の蜘蛛。オスはメスの3分の1程しかない。毒蜘蛛では無い。

交尾の後、メスがオスを肉体疲労時の栄養補給の為に食べてしまう事があり、そこから男を食う女と言うそのまんまのイメージが発生したのかもしれない。

ネットで検索をすると有名ブランドの別のゲームか、あるベストセラー小説家の小説の事ばかりが出てきてブルーになれる。

すいらいてい【水雷艇】

魚雷艇の事。排水量百頓未満の小型船舶。

魚型水雷（魚雷）を使用して大型船舶へ肉薄攻撃をかける。

荒天時には出撃できない事もあった。

第二次世界大戦でアメリカがレーダーを使い始めるまで、夜の海での魚雷攻撃は日本海軍の得意技であった。

たまご【卵】（関連　中畑伊佐治）

食用にする鳥や魚の卵。とくに鶏の卵をさす場合が多い。

伊佐治の信仰しているものでもある。

確かに栄養豊富な素晴らしい食材であるが、食べ過ぎるとコレステロールがたまるので良くないらしい。

もっとも、コレステロールは体に害がないと言う説もあるので、この件に関しては断言は出来ない。

ていと【帝都】

①東京の事。

②怪人加藤が大暴れした場所。

なわぜめのけんきゅう【『縄責メノ研究』】（関連　中畑伊佐治）

大正末期の発禁本。縄責めの仔細な方法が図解入りで描いてあったと言う。

発禁される直前にごく少部数が印刷所から流出。

確認されている所では、戦前における稀代の蔵書家馬淵虎三が二部を所蔵していたと言うが、一部は敗戦直前東京大空襲の折り馬淵氏とともに焼失。もう一部も疎開作業のさなか行方不明となったと言う。

のーぶれす・おぶりーじゅ【貴血義務】（関連　『仏蘭西少女』）

貴い血によって選ばれた選良は、人々の為に率先して身を捧げると言う意味の言葉だそうである。だが、現在では大抵は貴い血だと当人が思いこんでいるだけで中身がないので、言葉だけが虚しく存在する。

ばぞく【馬賊】（関連　外地、満州）

清朝末期から中華民国にかけて中国東北部に横行した騎馬の群盗。

当たり前だが馬に乗るのがうまかったに違いない。

ひらつからいてう【平塚らいてう】

本名・明（はる）。明子（はるこ）は通称、雷鳥（らいてう、らいちょう）はペンネーム。今の女性解放運動の元祖。

1911年雑誌『青鞜』を創刊し、「新しい女」と名乗り女性解放・婦人参政運動に力を尽くした。

今から見ると、女数人で料亭にあがって酒を飲んだりしても大した事ではないが、当時は新聞種になるほど破廉恥極まりない行いだった。男がやるような事を女がやる、又はそれが充分可能であると言う事を示す行為その物が当時の男（又は世間一般）には社会秩序を乱す行為と捉えられ、その憎悪を一身に浴びる事となってしまったのだ。

大隈重信が「新しい女は死んだ方がいい」と言うような事を言ったのはそれを端的に表している。

有名な『元始、女性は太陽で在った』は『青鞜』創刊号の巻頭言。

「元始、女性は実に太陽であった。真正の人であった。今、女性は月である。他によって生き、他の光によって輝く、病人のような蒼白い顔の月である。さてここに「青鞜」は初声をあげた」

フィッツ・ジェイムス・オブライエン

1829年、イギリスに生まれる。1852年、下士官の妻と駆け落ちを図り失敗。傷心をかかえて渡米。

渡米後、詩や小説を立て続けに発表し一躍文壇の寵児となるが、1861年南北戦争で重傷を負い、手術で左腕を切断。1862年永眠。享年33歳。

残された作品は多いとは言えないが、幻想文学史、並びに初期のSF史において、忘れがたい足跡を残した。

代表作『ダイアモンドのレンズ』『手から口へ』『失われた部屋』。

にしても絶版になったサンリオSF文庫って高すぎ。

ふせんほう【普選法】

普通選挙法の事。現在と違って戦前は女性参政権がなかった。

同時に成立した治安維持法は、特高警察の便利なオモチャとして乱用され、多数の人間を逮捕拷問する口実となり、更により多くの人間をだまらせて、日本を破滅へと導いた。

あやふやな規定を持つ法律は、恣意的に運用されがちである事の証明。

ほくちびるじんぐ【北地ビルジング】（関連　北畠家、北地商会）

北畠財閥の中枢。北地商会の本社所在地。弐年の建築期間と、八百万円の総工費を掛けて、大正壱拾年に完成。

完成当時、七階建て鉄筋コンクリート作りの偉容は、周囲の赤煉瓦との対比で、ひどくモダンに見えたという。

月に一度、財閥関連企業の主要65社の代表が集合し総会が開かれ、ここで決定された方針が財閥全体の方針となる。

ほくちしょうかい【北地商会】（関連　北畠家、北地財閥）

北畠財閥の中枢。北畠家が支配する持ち株会社。

北地商会自体の規模は小さいが、北地財閥を構成する他社の株式を七割以上保有している為、この会社のトップが北地財閥の事実上のトップとなる。

清邦の死後、一時的に那賀川義男が形式上のトップとなるが、実質的には集団指導体制を取っていた。

本社の所在地は帝都丸の内、北地ビルジング。

まるびる【丸ビル】（関連　関東大震災）

1923年2月に丸の内に完成した『丸の内ビルヂング』の略称。

地上9階、地下1階。総工費千万円。『北地ビルジング』より一回り大きい。

戦前完成した建造物の中で最大の延べ面積を誇り、東洋一の大ビルと称された。

関東大震災、更に戦災をくぐりぬけた丸ビルも、寄る年波には勝てず1997年に解体され74年の歴史を閉じた。

まんしゅう【満州】（関連　外地）

中国の東北部の三省（遼寧、吉林、黒竜江）と内蒙古自治区の一部をさす呼称。

高句麗、渤海、遼、金、清の発祥の地であり、日露戦争末期の戦場でもあった。

みぼうじん【未亡人】

旦那を亡くした奥さんの事。

18禁的な常識では豊満な体を持ち色っぽい事になっている。

自分の奥さんに色気がないと嘆いている方は、いっそ奥さんを未亡人にして見ると言うのはどうだろう？　色気が出ること請け合いである。

モーゼル【魔宇挫唖】

ドイツの一次大戦時の軍用拳銃。

マウザーとも言う。ごつくてカッコイイ。弾がなくても、これで殴られると痛い。

らんちゅう【蘭鋳】

金魚の品種。背は丸くて背びれが無い。

昔、たまが四人編成だったころ、『らんちゅう』と言う歌を歌っていた。

現在、たまは三人編成である。

りょううんかく【淩雲閣】

浅草十二階を参照。

りきしゃ【力車】

人力車のこと。公害知らずの素晴らしい交通機関であるが、鉄道とバスの普及により廃れてしまった。実物は浅草辺りで走ったりしている事もあるようだ。

一回乗ると2000円ばかり取られる場合もあるようだ。





北畠 茉莉絵
この度はお誘い戴きありがとうございます。
こう言った場所では描き慣れていないので、
チョット緊張気味デス…
とんぷう



せあら
with
ぱすてる
祝、女郎蜘蛛～真伝～発売。
お誘い下さり、ありがとうです。
日本人はやはり着物ですね。
和服好きの せあらでした。

女郎蜘蛛～真伝～　主題歌

うたかた

歌：江幡育子（アトリエピーチ）
作詞：丸谷秀人
作・編曲：細江慎治（SuperSweep）
sound produced by Atelier Peach
recorded at Studio Love Deluxe

しあわせになれないと
いったときの　ぬれたくちびる
たがいにひきあい　あついくちづけ

ていしゃばのひとなみ
いつのまにか　ほどけてたうで
せかいをなくしたよな　かなしみ

ほどけることが　わかっているのに
むすぼうとした　いたみ

　むすばれる　よろこび
　おわりのよかんを　かかえ
　ひとは　えにしのむすびがうむ
　ほどけてちりゆく　はな

つめたくしろいふしど
ふたりのかみ　からみあうのを
かんじるひとよの　よろこび

ほどけることが　わかっているから
むすぼうとした　おもい

　むすばれる　くるしみ
　はじまるよかんに　ふるえ
　ひとは　みずからむすびつづけ
　さきほこりかおる　はな

　むすばれる　ほどける
　ひかれてく　ひきさかれてく
　ひとは　みずからむすびつづけ
　さきほこりかおる　はな




し……
死んでるっ?
そ、そういや
最近ちょっと
激しく責め
すぎてた
ような……
水責めとか
海老縛り
晒しとか……
いや、でも
別に俺だけが
責めてたわけじゃ
ないし、俺のせい
ってわけじゃ……
(責任転嫁)
いやいやいや
落ちつけ俺!!
ここはまず
脈を見るのが
肝要だろう!!
ぶん
ぶん
ん〜
あぁーーっ!!
ピクッ


蝶ちゃん……
蝶ちゃんが……
ま、茉利絵ちゃん
これはだね……
ま、まさか
書生さんが
蝶ちゃんをっ?!
ち、違うんだっ
これは俺が何か
したってわけではっ
たしかにいろいろ
してるっちゃしてるが
それとこれとは
別問題でっ!!
いやぁーーっ
けだものーーっ
近寄らないでーー!!
ひーとー
ごーろー
しー
まっ
まずいっ!!
記憶を
失えーっ!!
ゴッ
しっ?!



しまったぁーっ!! 勢い余って 新たな犠牲者がーっ!!
芸術的に 決まってしまった!!
どーーん
ここのままでは あからさまに 俺が怪しまれて しまうっ?!
かくなる うえは・・・
逃亡
・・・まさか こんなことに なろうとは・・・
鉄哉に使われるの かと思って、されるが ままにしてただけ

from STONE HEADS

この度は『女郎蜘蛛～真伝～（初回限定版）』をお買いあげいただき、誠にありがとうございます。そして、発売延期申し訳ございませんでした。しかしながら、こうしてようやく皆様のもとにお届けできる運びとなりました。これもひとえに『女郎蜘蛛』を応援していただいた皆様のおかげと、スタッフ一同、大変感謝しております。

今回は、『女郎蜘蛛』を応援していただいている皆様、いち早く手にとってくれた皆様への感謝を込めて、初回特典として、このような“オフィシャル同人誌”なるものを製作してみました。

本編スタッフ自らが参加しているものを果たして“同人誌”と呼べるかどうかは疑問ですが、いわゆるファンジン同様、対象となる作品の世界を広げて遊ぶことを旨としました。楽しんでいただければ幸いです。

……それにしても、ストーンヘッズの作品って、販売本数のわりに同人誌とかってあまり出てませんよね（汗）。やっぱり、元がエロすぎるのがいけないんでしょうか……（涙）。

そんなわけで、ちょっぴり寂しい今日この頃ですが、もしストーンヘッズ作品の同人誌などつくりましたら、下の住所まで送っていただけると、スタッフ一同、狂喜乱舞します。盗作や無断転載・改変はともかく、常識の範囲でのいわゆるパロディ、二次創作は全く問題ありませんので、どんどんやってもらえると幸いです。

今後とも弊社製品をよろしくお願いいたします。

オフィシャル同人誌製作担当
PIL/NEOPIL/STONE HEADS
統括ディレクター　tama



『女郎蜘蛛～真伝～』オフィシャル同人誌
発行日　2002年6月21日
発行者　株式会社ストーンヘッズ
連絡先　〒153-0061
東京都目黒区中目黒3-5-12
ルピナス山崎1F



女郎蜘蛛～真伝～

オフィシャル同人誌 by PIL